

鳩森八幡神社例大祭

ワッショイ！ワッショイ！

9月10日、11日に鳩森八幡神社の例大祭がおこなわれ、子ども神輿、大人神輿が千駄ヶ谷の街に繰り出しました。

代々木病院がピロティ・駐車を休憩所として開放、友の会の役員、職員が、子どもたちにはお菓子の袋を準備、冷たいジュースやスイカ、ソーメンなどを用意して迎えました。代田副院長、日向事務長がいさつ、参加者をねぎらいました。



鳩森神社の例大祭に参加して、今回が初めての参加で、子どもが小さい頃近くの神社のお祭りを見にいって、実際に神輿をかつぐのは初めてでした。かつぐのも身長が足りないので下がついていようなものでした。

友の会が入った宮本(組)町会は、子どもたちが引く太鼓山車、子どもがかつぐ子ども神輿、大人がかつぐ大人神輿と3台出ました。鳩森神社の裏から出発して、代々木病院で一休み、そこで友の会からの差し入れをご馳走になり、駅前を走って西通りに出て2度目の休み、そこで数軒の差し入れがあり、汗を拭いたあと坂を登って神社へ。神社の前で奉納儀式をしたあと、神主のほからい宮入りをしました。これは今までになかったことだそうで、氏子としてはありがたいことだそうです。



参加のみならず、ご苦労さまでした。

幹事 関谷義孝

友の会のページ

「お元気ですか」改題No.344
編集 代々木健康友の会
☎03(5441)9589
FAX 03(3404)3421

会費納入のご案内
会費納入は、郵便振替が便利です。
会費は年間1,000円です。
口座番号 00190-7-71019
加入者名 代々木健康友の会
9月1日現在会員数約4471人

代々木健康友の会 第50回記念総会へぜひご参加を

友の会は、1962年に「代々木病院後援会」として発足、1974年に「代々木病院友の会」、2006年に「代々木健康友の会」と名称変更して、今年が50回の記念すべき総会となります。

今総会は、節目の年として、三部構成で企画しています。みなさんと歴史を振り返り、さらに前進させるべく気持ちを新たにしたいと考えております。

ぜひ、ご出席をお願いいたします。

日時 2016年10月23日(日) 午前9時30分会場10時開会 終了は3時を予定しております。昼食をご用意します。

第一部 通常の定期総会
第二部 50回記念「思い出のアルバム」
第三部 文化行事 代々木病院合唱団バンブー他
会場 全理連ビル9階会議室(JR代々木駅徒歩3分)

待合室

8月か、代々木病院の事務長になりました。宜しくお願います。

わたしが生まれ育ったのは、茨城県出身の明治の作家である長塚節の著作、「土」に記された米作地帯に近いところでした。今でも緑豊かな田園風景がひろがる茨城県筑西市(旧明野町)です。その当時はこの家も大家族で必ず、お年寄りが家族の一員でした。しかし、

生きるということ

足腰が弱り、認知症になつたお年寄りの生活を援助、介護するのは決まっていますが、その家の女性(主に長男の嫁)を中心とした家族でした。わたしや友人の家もそうでした。忙しい農作業や家事の合間に、母や女性たちが、寝たきりのお年寄りの介護をするのは当たり前なこともありませんが、劣悪な環境の中で療養や生活、そして介護をし

なくてはならなかったお年寄りや母、女性たちを思い返すと、今でも悲しくつらい時代が浮かび上がってきます。その事がわたしの民医連運動の原点なの

活も改善されました。反面「介護難民」「漂流老人」等の悲しい文言が新聞等から発信され、日本の社会保障制度の虚実をあきばき出している事も事実です。

院)の理念及び活動を共同組織の皆さん、地域住民及び労働者、そして行政や医療・介護関係者の皆さんと共にすすめてまいります。

最後にありますが、患者様、利用者様のご紹介をぜひ、お願いします。当院も経営改善に向け、全職員あげて取り組みをすすめています。経営の改善及び安定が医療活動や民医連運動の前進には欠かせません。ご協力をお願いします。代々木病院事務長 日向正美

全国共同組織交流集会

今こそ共同組織・友の会の出番

第13回全日本共同組織活動交流集会が9月4日と5日に石川県で開かれ、全国から2000名が参加しました。

今回の集会は「決めるのは私たち 憲法を生かし平和・人権・環境をまもろう 地域まるごと安心して住み続けられるま

「楽しく人の役に立つのが嬉しい」と生き生き輝いていると報告がありました。

十勝勤医会は5年間で76人の孤独死が出たことを受け、友の会ニュースの配布時に「ひと声かけ、見守り活動」に取り組んできました。この活動は、帯広市も認め、民間企業と連携し「帯広気づきネットワーク」をつくり、老人会などと連携し、市民権を得てきたとの報告がありました。

「安心して住み続けられるまちづくり」の分科会に参加。すべての発表内容は、地域住民の要求、願いに寄り添いながら会員とともに、地域とともにを大事にし、ひとりのために、みんなのた

「たまり場・居場所づくりの実践の交流」の分科会に参加。それぞれが、高齢者の孤立孤独感の解消や助け合い活動の拠点として「いつでも、誰でもくつろげる居場所・つながり」があつて、地域まるごと元気になるたまり場・気軽に立ち寄りホット安らげるサロ

会長 布施 仁



幹事 中西範子